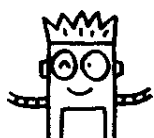


藤原氏は、どうやって勢力を強くしたの



てんのう がいせき
**天皇の外戚、高級役人になるとともに、じゃまな
 人をたおしていったんだよ。**

娘を利用して、天皇の外戚となった

藤原氏が勢力を強めたのは、鎌足の子不比等からです。彼は、天皇や皇太子のきさきに、自分の娘を送りこみました。光明皇后も、聖武天皇が皇太子のときに皇太子妃になった、不比等の娘です。このように藤原氏と天皇家を結びつけるうえで、大きな役割を果たしたのは、宮中の女官として勢力をふるっていた、不比等の後妻のあがたのいぬかいのたちばなのみちよ 梶原景時にょかん 景行の地位を、藤原氏がひとりじめにしました。

律令制度にくわしい貴族として、高い官位についた

不比等は、大宝律令をつくる事業の中心メンバーとなり、それが完成してから、官位の昇進が早まりました。その後は、養老律令づくりも行いました。彼の死後、長男の武智麻呂むちまる なんげ (南家の祖)、次男の房前ふささき きたけ (北家の祖)、三男の宇合うまかい しきけ (式家の祖)、四男の麻呂まる きょうけ (京家の祖)も、高い官位につきました。藤原氏は、古いタイプの豪族から、律令制度にくわしい高級役人の貴族へと、いち早く変身したのです。

じゃまな人をたおしていった

藤原氏は、自分たちの地位をおびやかす人をたおしながら、勢力を強めていきました。長屋王ながやおう てんむてんのう (天武天皇の孫)らの皇族や、橘氏たちばなし・大伴氏おおともし・佐伯氏さえきし・多治比氏たじひしなどの名門の一族が、藤原氏によってたおされていきました。藤原氏でも、南家・式家・京家は、政治的な事件に関係しておとろえましたが、北家ふゆつぐは冬嗣の代から、藤原氏の本流となって栄えました。